

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

第八日目

→ ①、② キリストに焦点が置かれた神のデザイン

天地創造後、第七日目に神は安息された 第七日目はまだ今日まで続いているのだろうか？

神、「第七日目」に、創造のわざを完成 創世記2：1-3

「第七日目」：

「夕があり、朝があった」で締めくくられていない

⇒ 私たち人類、未だ「第七日目」に生きているのだろうか？

預言者イザヤ、「新しい天地創造」の時代、至福の時代到来を預言 イザヤ書65：17-25
この神の約束の「とき」はいつか？



人類の救い主イエス・キリストは週の初めの日、第八日目に甦られた！

天地創造は、「暗やみ→光」のパタンで始まった

イエス・キリストは「安息日」の翌日の「週の初めの日」、「第八日目」に甦られ、

罪の闇の中にいた人類に真の「光」をもたらされた

この大いなる神のわざは、現存の天地創造以来、初めての創造のわざ

神の御旨は、現存の天地の新生と、究極的な再創造

—「見よ。わたしは、すべてを新しくする」— 黙示録21：5

キリストの甦りを境に、創造の「第二週目」が新たに始まり、新創造の時代に入った



イエス・キリストは新創造の「初穂」 コロサイ人1：18

神のご計画の最終目標は「永久の時代」、^{とこしえ}「新しい天と新しい地...新しいエルサレム」
黙示録21：1-2

キリストを信じる者たち、「安息日」明けの「日曜日」に、主を礼拝し始めた

神が新たに創造の仕事に戻られたという事実に基づき、日曜礼拝（第八日目礼拝）が始まった

キリストの甦り

1. 「福音」の鍵となる出来事 コリント人第一15：1-4

2. 罪人が「義」とされるため ローマ人4：25

3. 実質ある信仰と宣教の基^{もと} コリント人第一15：14

4. この出来事の証人であることは、「使徒」の必要条件

5. キリスト信仰の鍵となる真理

⇒使徒たち、この出来事に、宣教時いつも言及

聖書

ヨハネの福音書20章

- : 1 「...週の初めの日に」 :
旧創造は終り、新時代の幕開け
「マグダラのマリヤ」 :
空の墓を最初に見、甦りのキリストに最初に出会った
- : 2-4 「...そこでペテロと...いっしょに走ったが、もうひとりの弟子...先に墓に着いた」 :
若いヨハネ、ペテロを追い抜き、先に墓に着く
- : 5-7 「...亜麻布...を見た...イエスの頭に巻かれていた布切れは...巻かれたままに...」 :
キリストの遺体には、頭と身体をおおうため、二枚の亜麻布が用いられた
墓の中には、もぬけの殻の「墓布」と「頭布」が、キリストの身体の形のまま残されていた ⇒ 甦りの「状況証拠」
- : 8 「そのとき、先に墓に着いたもうひとりの弟子も入って来た。そして、見て、信じた」 :
ペテロとヨハネの挙動
1. 5節「のぞき込み」 : ヨハネの^{いちべつ}一瞥
 2. 7節「～を見た」 : ペテロの慎重、細かな観察
 3. 8節「見て、信じた」 : 理解、洞察によって見る
- : 9 ヨハネ、何が起こったかを知って、見て、そして、信じた
- : 10 「それで、弟子たちはまた自分のところに帰って行った」 (下線付加) :
弟子たち、おそらくキリストの母に告げるため、急いで戻った
証言の確立に要求された証人は、二人 民数記35 : 30
- : 16 「イエスは彼女に言われた。『マリヤ。』」 :
羊飼ひ、自分の羊を名で呼ぶ ヨハネ10 : 3-4
「彼女は振り向いて、ヘブル語で、『ラボニ (すなわち、先生) 』とイエスに言った」 :
‘Ραββουvi’、‘רַבּוֹנִי’ : 独占的に「神」に用いられた表現
- : 17 「...わたしにすがりついてはいけません...」 :
三通りの見解
1. キリスト、ご自分が永久の大祭司として、天に聖い血をささげる途上にあることに言及
 2. 甦りのキリストとの新しい関係ではなく、いつまでも主と弟子たちの古い関係のまま、キリストにすがりつき続けることに対する非難
 3. 「わたしを留めないように。わたしはまだ父の御許に戻っていない。あなたがたはまた、わたしを見るでしょう。ですから、まず、このことを兄弟たちに告げなさい」

マタイ28章

- : 11-15 「...数人の番兵が都に来て、起こった事を全部、祭司長たちに報告...金を与え...」 :
「説得して」は「わいろによって」の意
祭司長たち、兵士たちをわいろで買収、「キリストの弟子たちによる、キリストの遺体窃盗」の陰謀説を広める

エマオへの道 ルカ24 : 13-39

- 「全ヘブル語聖書」に及ぶ聖書の学びに当てられた、キリストとの「11km」の道のり—
二人の弟子、エマオへ向かう途上で、甦りのキリストに出会った
⇒ キリストを、霊の目、耳、心で理解し、信じる時代の到来 ヨハネ4 : 24
内住のキリスト「聖霊」が働かれるとき、神の言葉、『聖書』が分かるようになる
聖霊は神を求める者に働かれる
- : 30-31 「...イエスはパンを取って祝福し、裂いて...彼らの目が開かれ...わかった」 :
キリストの手首には釘跡 → 35節
- : 38 「なぜ取り乱しているのですか」 :
弟子たち、キリストを認識することができなかった

聖書

→ ①、④ 聖書の記述、時代を超えた一貫性、背後に神

ヨハネ20章

: 19 「その日...週の初めの日の夕方のこと...ユダヤ人を恐れて戸がしめてあった...」 :

ローマ時間では、日曜日の午後6-9時

二重の戸（複数）には、錠が降ろしてあった

: 20 「...イエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ」 :

キリストの甦りの身体には十字架の傷跡

⇒再臨のキリストに関するゼカリヤの預言の描写の確かさ、確証 ゼカリヤ書12:10

預言:ユダヤ人たち、「彼らが『突き刺した者』を見上げるであろう」

終末末期に起こるイスラエルの霊の覚醒

エマオ途上の出来事と、キリストが弟子たちにご自身を突然顕された出来事

⇒「イスラエルの霊の覚醒」の予兆

二人の弟子、キリストの手首の釘跡を見て初めて、甦りのキリストを信じる事ができた
キリストの「甦りのからだ」は、生前の特徴を備えているが、すぐには主と判断できない
全く違った「からだ」であった



同様に、

再臨のキリストの両手、両足、脇の傷跡を見ると、その瞬間、ユダヤ人の目が開かれ、
ナザレ人イエスを、「ユダヤ人の救い主」として受け入れる日が来る

⇒霊の目が開かれた者、もはや見えるキリストの存在に執着し、すがり続ける必要はない

: 21 「...父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。』」 :

「遣わされた者」 ‘Απόστολος (アポストロス)’ は、「使徒」

: 22 「...こう言われると、彼らに息を吹きかけて...『聖霊を受けなさい...』 (下線付加) :

LXX (ギリシャ語訳ヘブル語聖書) では、同じギリシャ語、創世記2:7だけに使用
キリストの弟子たち、今、新しい創造の産物となった

: 23 「あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され...残すなら...残ります」 :

揺るがない原則:神のみが、罪を赦すことができる

弟子たちに与えられた「罪を赦す力」とは? :

「罪を忘れないか、免除するか、どちらか」の意、罪の赦しそのものへの言及ではない

: 24-27 「...八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らといっしょにいた...」 :

一週間前、トマス、自分の目で主の甦りの事実を見るまでは信じない、と言明

今、突然顕れたキリストのトマスへの語り掛けは、そのときの会話の続きであった!

信仰診断

1. 救われない信仰

①空しい信仰:間違った教理への信仰 コリント人第一15:14-17

②死んだ信仰:キリストとの個人的な関係のない、ただ教理への信仰 ヤコブ2:18、:20

2. 救われる信仰

①小さな信仰

②弱い信仰

③強い信仰

: 28 「トマスは答えてイエスに言った。『私の主。私の神。』」 :

トマス、ためらうことなくキリストを「神」として、信仰表明

: 31 「...これらのことが書かれたのは...イエスの御名によっていのちを得るため...」 :

彼らは信じた、そして、永久の生命を受けた

『ヨハネの福音書』には、信じて「永遠の生命」を受けた多くの人たちが登場
救われた人たちの証言はみな同じ、「私は信じる」

聖書

聖霊降臨の約束

この出来事以降、霊の目が開かれ、キリストを証ししている書『聖書』を悟るようになる者たち、キリストの「証人」として、全世界に送りだされる ルカ24:48

「教会の時代」、**「福音大宣教の時代」**

キリスト、死に際して、父の霊を天上に返された

キリスト昇天直後のペンテコステの日、この神の霊、—聖霊— 再び地上に降られ、キリストを信じる者の内に宿られるようになった

甦りの重大な意義

⇒ 聖書の信憑性、キリストの甦りに依存

⇒ 甦りの事実信仰が喚起されたキリスト者

1. 初期のキリスト者たちに起こった著しい変化
2. キリストのために、殉教に生涯をささげた多くのキリスト者

⇒ 甦りの事実、聖書自体を確証

1. キリストは真の神の子
2. 聖書の真理
3. 今や信じる者たちすべてにとって、自分たちの未来の甦りは確証
4. 未来の裁きの確証
5. キリストの天上での祭司としての務めの証明
6. キリスト者の人生における神の力
7. 信じる者の未来の朽ちない資産継承の確証

福音の定義

「...キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと」（コリント人第一15:1-4）

[『一人で学べるルカの福音書』](#) 参照

→ **⑧** 科学が立証するキリストの甦り

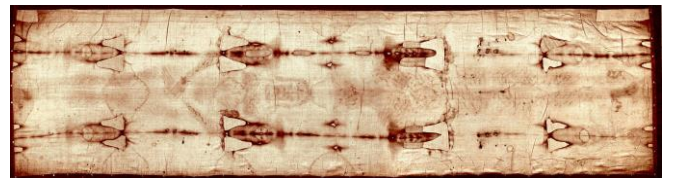
「トリノの聖骸布」—墓布— と「オビエドの聖顔布」—頭布—

「トリノの聖骸布」

幅1.1m、長さ4.4mの亜麻布、キリストの埋葬に用いられた遺品

1988年、三大学による「放射性炭素年代測定法」で、1260-1390年代（中世）の偽造と鑑定

しかし、人の全体像を布の上にネガ状に転写する精巧な技術は今日の工学でも不可能



続けられた調査

2013年、再度の年代測定の結果、280BCE-220CEの年代のパレスチナ原産の墓布と鑑定

「オビエドの聖顔布」

幅53cm、長さ84cmの亜麻布、「トリノの聖骸布」と同年代の布であると鑑定
聖骸布と七十箇所血痕の位置が一致し、同一人物の聖顔布とみなされている



『フルダレターNo.223 (平成26年5月、フルダミニストリー月報)』参照